

# 第3学年商業科 シラバス (商業) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	財務会計Ⅱ	学年	3	類型	商業科
単位数	2	教科書	財務会計Ⅱ	出版社	東京法令出版		
副教材							

## 学習の到達目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動をおこなうことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにします。</p> <p>(2) 企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠にもとづいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業および企業の経営判断を分析する力を養います。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。</p>
---

## 授業の概要

<p>各種会計処理やキャッシュ・フロー計算書の作成、連結会計などの演習を行います。日商簿記検定1級の導入レベルの内容を理解し、応用力を身に付けます。連結会計の基本から応用まで幅広くカバーし、連結財務諸表の作成の流れを学びます。</p>
---

## 評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身に付いている。	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあつて、財務会計をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力、財務指標を組み合わせて企業の実態を総合的に分析する力および経営判断が企業に及ぼす影響を会計的側面から分析する力が身に付いている。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら財務会計について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、国際的な会計基準を踏まえた企業集団の会計処理などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身に付いている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況 振り返りシート・ルーブリックなど
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるものうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	<p>第Ⅰ編 財務会計の基本 概念と会計基準</p> <p>第1章 財務諸表の作成 と表示の考え方</p> <p>第2章 資産負債ア プローチと収益費用 アプローチ</p> <p>第3章 会計基準の国際 的統合</p> <p>第Ⅱ編 会計処理</p> <p>第1章 貨幣の時間価値</p> <p>第2章 金融商品・ 外貨建取引</p> <p>第Ⅱ編 会計処理</p> <p>第2章 金融商品・ 外貨建取引</p> <p>第3章 有形固定資産</p> <p>第4章 無形固定</p> <p>第Ⅱ編 会計処理</p> <p>第5章 繰延資産</p> <p>第6章 固定負債</p>	<p>●企業会計の意義と領域、会計基準、財務報告の目的について理解します。</p> <p>●「簿記」や「財務会計Ⅰ」で学習した勘定科目が、財務諸表の構成要素の定義を満たしているかについて主体的に考察し、表現します。</p> <p>●資産負債アプローチと収益費用アプローチのそれぞれの考え方や、包括利益と純利益の関係について理解します。</p> <p>●日本の会計基準および国際会計基準の概要と、会計基準の国際的な統合の動きについて理解します。</p> <p>●割引計算をおこなう前提となる、貨幣の時間価値の概念について理解します。</p> <p>●債権、貸倒引当金の見積りおよび有価証券など、金融資産に関する会計処理について理解します。</p> <p>●先物取引、スワップ取引、オプション取引およびヘッジ会計など、デリバティブ取引に関する会計処理について理解します。</p> <p>●繰延資産の概要と、その会計処理について理解します。</p> <p>●社債、退職給付引当金および資産除去債務など、固定負債に関する会計処理について理解します。</p> <p>●繰延資産の概要と、その会計処理について理解します。</p> <p>●社債、退職給付引当金および資産除去債務など、固定負債に関する会計処理について理解します。</p>	<p>1 学期 中間考査</p> <p>1 学期 期末考査</p>
2 学期	<p>第Ⅱ編 会計処理</p> <p>第7章 純資産</p> <p>第8章 収益と費用</p> <p>第Ⅱ編 会計処理</p> <p>第9章 税効果会計</p> <p>第Ⅲ編 キャッシュ・フロー に関する財務諸表</p> <p>第1章 キャッシュ・フ ロー計算書</p> <p>第Ⅳ編 企業集団の会計</p> <p>第1章 企業結合会計</p> <p>第2章 連結財務諸表の 作成</p> <p>第Ⅳ編 企業集団の 会計</p> <p>第2章 連結財務諸表の 作成</p>	<p>●純資産の分類、ストック・オプション、分配可能額および株主資本の計数変動など、純資産に関する会計処理について理解します。</p> <p>●委託販売、受託販売、未着品売買、試用販売および工事契約などの会計処理について理解します。</p> <p>●税効果会計の意義と、棚卸資産の評価損、未払事業税、圧縮記帳および繰延ヘッジ損益に関する税効果会計の会計処理について理解します。</p> <p>●ヘッジ対象およびヘッジ手段の両方に税効果会計を適用する取引の仕訳をおこなう問題に取り組みます。</p> <p>●資金調達の方法にはどのようなものがあるかについて主体的に考察し、表現します。</p> <p>●キャッシュ・フロー計算書の意義、必要性、表示区分とその作成方法について理解し、資料をもとに直接法および間接法によるキャッシュ・フロー計算書を作成する学習活動に取り組みます。</p> <p>●EDINETを利用して実際の企業のキャッシュ・フロー計算書を手し、そこから読み取れることを自分の言葉で表現する学習活動に取り組みます。</p> <p>●貸付金が投資C/F、借入金で財務C/Fに記載される理由について主体的に考察し、表現します。</p> <p>●吸収合併、株式交換および株式移転など、企業結合会計に関する会計処理について理解します。</p> <p>●連結財務諸表の意義と目的、連結の範囲、連結財務諸表の種類について理解し、資料をもとに支配獲得日の連結B/Sや、連結第1年度末の連結F/S（資本連結のみ）を作成する学習活動に取り組みます。</p> <p>●資料をもとに連結第1年度末の連結F/S（成果連結を含む）を作成する学習活動に取り組みます。</p> <p>●子会社株式の段階取得や追加取得、一部売却などの会計処理について理解します。</p> <p>●連結税効果会計の意義と、その会計処理について理解します。</p>	<p>2 学期 中間考査</p> <p>2 学期 期末考査</p>
3 学期	<p>第Ⅳ編 企業集団の 会計</p> <p>第2章 連結財務諸表の 作成</p> <p>第3章 持分法</p> <p>第Ⅴ編 財務諸表分析</p> <p>第1章 企業価値の評価</p> <p>第2章 株価を用いた 財務諸表分析</p> <p>第3章 連結財務諸表 分析</p> <p>第Ⅵ編 監査と職業会計 人</p> <p>第1章 会計責任と 監査の概要</p> <p>第2章 職業会計人の 倫理</p>	<p>●連結精算表、連結包括利益計算書（連結損益及び包括利益計算書）、連結キャッシュ・フロー計算書の概要や、連結財務諸表の表示およびそれぞれの関係性について理解します。</p> <p>●持分法の意義、適用範囲および持分法の基礎的な会計処理について理解します。</p> <p>●合併・株式交換・株式移転などの企業結合がおこなわれる理由について主体的に考察し、表現します。</p> <p>●企業価値の概要と企業価値を評価することの意義、およびキャッシュ・フロー分析などを活用した企業価値の評価方法について理解します。</p> <p>●株価収益率、株価純資産倍率、株価売上高倍率および株価キャッシュ・フロー倍率などの株価を用いた代表的な指標を利用して、財務諸表を分析する方法について理解します。</p> <p>●日本の監査制度の概要とその重要性、監査の実施方法などについて理解します。</p> <p>●職業会計人（公認会計士および税理士）の役割と倫理について理解します。</p> <p>●被監査会社の売掛金の残高が、取引先の回答金額と一致しない場合に監査人がすべき対応について主体的に考察し、表現します。</p> <p>●自分の5年後や10年後の仕事について考える学習活動に取り組みます。</p>	

# 第3学年商業科

# シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	プログラミング	学年	3年	類型	商業科
単位数	2	教科書	商業725 プログラミング～マクロ言語～		実教出版	実教出版	
副教材							

## 学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 1 コンピュータを使ったデータ処理の仕組みについて理解させる。
- 2 プログラミングに関する知識と技術を習得させる。
- 3 体験的学習を通して創造力や論理的な思考力を育成する。
- 4 ビジネスの諸活動において、情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する能力と態度を育む。

## 授業の概要

- ・プログラミングに関する基礎的な内容を学習し、マクロ言語に関する技術と基本的な内容を学習する。
- ・商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の対象	定期考査 小テスト	・授業態度	・検定試験
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</li> <li>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</li> </ul> <p>5 … 十分満足できると判断できるものうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	<p><b>1章 情報システムとプログラミング</b></p> <p>1節 情報システムの重要性</p> <p>2節 プログラム言語の種類と特徴</p> <p>3節 プログラミングの手順</p> <p><b>2章 アルゴリズム</b></p> <p>1節 アルゴリズムの表現技法</p> <p>2節 基本的なアルゴリズム</p> <p>3節 応用的なアルゴリズム</p> <p><b>3章 プログラムと情報システムの開発</b></p> <p>1節 情報システム開発の手法と手順</p> <p>2節 プロジェクト管理</p> <p>3節 プログラムによる企業活動の改善</p>	<p>・企業における情報システムの重要性について理解し、情報システムを構築して企業活動を改善している具体的な事例を参考に、これらのシステムに関連づけて分析し、考察するなどの学習活動を取り入れる。</p> <p>・手続き型言語やオブジェクト指向言語などプログラム言語の種類、代表的なプログラム言語の記述方法などの特徴を理解する。また、プログラムや情報システムの開発を支援するソフトウェアについて考察する学習活動を取り入れる。</p> <p>・問題の分析からテストラン、デバッグに至る一連のプログラミングの手順について理解する。</p> <p>・アルゴリズムについて理解するとともに、効率のよいアルゴリズムを思考し適切に表現する技法を身に付ける。</p> <p>・オブジェクト指向設計のための基本的な表記を理解する。</p> <p>・基本的なアルゴリズムについて、手続き型言語を用いたプログラミングの知識と技術を身に付ける。</p> <p>・基本的なアルゴリズムを用いて、目的に応じた適切なプログラムを作成する知識と技術を身に付ける。</p> <p>・添字を適切に用いて、配列を利用する意義や利点を理解するとともに活用する技術を身に付ける。</p> <p>・応用的なアルゴリズムを用いて、目的に応じた適切なプログラムを作成する知識と技術を身に付ける。</p> <p>・情報システムの開発に関する手法の種類や特徴、開発する情報システムの規模や内容などに応じて適切な手法を選択することの重要性及び要件定義、外部設計、内部設計など情報システムの開発に関する手順について考察する学習活動を取り入れる。</p> <p>・人的資源、物理的資源などの確保、費用の見積り、進捗管理など、プロジェクト管理の意義と手法を理解する。</p> <p>・企業活動の現状を分析した上で、業務改善をおこなうためにはどのようなプログラムが必要か理解し、作成する。</p>	<p>1 学期 中間考査</p> <p>1 学期 期末考査</p>
2 学期	<p>4節 情報システムの開発</p> <p>5節 情報システムの評価と改善</p> <p><b>4章 情報システムの開発演習</b></p> <p>1節 Webページ作成の基礎</p> <p>2節 スタイルシートの活用</p> <p>3節 PHPの活用</p> <p>4節 データベースとの連携</p> <p>5節 携帯型情報通信機器用ソフトウェアの活用</p> <p>6節 オブジェクト指向型言語の利用</p> <p><b>5章 ハードウェアとソフトウェア</b></p> <p>1節 データの表現</p> <p>2節 ハードウェアの機能と動作</p>	<p>・企業活動の改善に対する要求を分析し、企業活動全体をふまえた情報システムを開発する。</p> <p>・情報システムの評価の意義と手法及び評価を踏まえた情報システムの改善の流れを理解する。</p> <p>・HTML言語を用いてWebページの作成を行う。テキストエディタで基本的なタグの学習し、タグを利用したWebページの作成技法について理解する。</p> <p>・CSSによる「スタイリング作業」（見た目のデザイン）について視覚表現の技法について理解する。</p> <p>・WebページのもととなるHTMLに動きを付けるPHPの操作方法を理解する。</p> <p>・データベースにおいてデータに対する「追加」「検索」「抽出」の管理方法、データベースの活用方法としてPHPと連携したシステムの構築について理解する。</p> <p>・スマートフォンやタブレット端末で動作するモバイルアプリケーションについて理解する。</p> <p>・オブジェクト指向の考え方を踏まえたデータの入出力、演算方法などについて理解するとともに、オブジェクト指向型言語を利用して基本的なプログラムの作成方法についての技術を身に付ける。</p> <p>・数値データの表現方法（10進数・2進数・16進数・基数変換）について理解する。また、コンピュータで使用される補助単位、誤差、論理演算、データ構造、ファイル形式、文字データの表現方法について理解する。</p> <p>・コンピュータの五大装置の構成について理解する。また、情報システムの構成や性能、障害対策について理解する。</p>	<p>検定試験</p> <p>2 学期 期末考査</p>
3 学期	<p>3節 ソフトウェアの体系と役割</p> <p>4節 情報セキュリティ</p> <p>総合演習</p>	<p>・ソフトウェアの体系や、それぞれの役割、目的について理解する。</p> <p>・情報セキュリティの目的やリスク、実現するための技術について理解する。</p> <p>・各種ソフトウェアを適切に活用し、様々なプログラムやシステム、アプリケーションを作成、または発表する。</p>	

# 第3学年商業科

# シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	観光ビジネス	学年	3	類型	商業科
単位数	2	教科書	観光ビジネス	出版社	実教出版		
副教材	観光ビジネス準拠問題集						

## 学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

## 授業の概要

観光とは何か、というところからスタートして、国内の観光資源や観光政策の動向、観光にかかわる業界などの知識を踏まえて、実際に観光ビジネスを展開するためのマーケティングの手法について学びます。様々な企業や地方公共団体がどのような観光に取り組んでいるのか、観光が経済や社会に与える影響を実際の事例から学びます。

## 評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組んでいる。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況 振り返りシート・ルーブリックなど
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</li> <li>・ 「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</li> </ul> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	<p>第1章 観光ビジネスの概要</p> <p>1. 観光ビジネスの担い手と特徴</p> <p>2. 観光ビジネスの動向</p> <p>3. 日本の観光政策</p> <p>4. 観光ビジネスと地域</p> <p>第2章 観光ビジネスの主な産業</p> <p>1. 旅行業</p> <p>2. 宿泊業</p> <p>第2章 観光ビジネスの主な産業</p> <p>3. 旅客輸送業</p> <p>4. 娯楽業</p> <p>5. その他の産業</p> <p>第3章 観光ビジネスのマーケティング</p> <p>1. 観光ビジネスの顧客</p>	<p>観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する。</p> <p>観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。</p> <p>観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する。</p> <p>観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。</p> <p>観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 ・観光ビジネスの意義と課題について理解する。 ・観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。</p>	<p>1 学期 中間考査</p> <p>1 学期 期末考査</p>
2 学期	<p>第3章 観光ビジネスのマーケティング</p> <p>2. 観光ビジネスにおけるマーケティングの意義</p> <p>3. 観光ビジネスのマーケティング戦略</p> <p>第4章 観光資源の発見と活用</p> <p>1. 観光資源とは何か</p> <p>2. 観光資源の保護と保全</p> <p>第5章 地方自治体の観光政策</p> <p>1. 地方自治体の観光政策の概要</p> <p>2. 地方自治体の観光政策の実施内容</p>	<p>観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。</p> <p>観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。</p> <p>観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。</p> <p>観光資源と観光政策について学ぶ。</p> <p>観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光資源と観光政策について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。</p> <p>地方自治体の観光政策について学ぶ。</p> <p>地方自治体の観光政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光政策を立案して実施し、評価・改善する。 地方自治体の観光政策について自ら学び、観光による地方創生や地域の活性化などを踏まえ、持続可能な観光政策に主体的かつ協働的に取り組む。</p>	<p>2 学期 中間考査</p> <p>2 学期 期末考査</p>
3 学期	<p>第6章 観光ビジネスと観光まちづくり</p> <p>1. 観光まちづくりとは何か</p> <p>2. 観光まちづくりと地域の活性化のプロセス</p>	<p>観光による地域の活性化について学ぶ。</p> <p>観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。</p> <p>観光による地域活性化について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。</p>	<p>学年末考査</p>

# 第3学年商業科

# シラバス（商業）科

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	総合実践	学年	3	類型	商業科
単位数	3	教科書	総合実践の手引き	出版社	大洲高校商業科		
副教材							

## 学習の到達目標

- 1 商業活動を実践的に行う事によって、それに関する商業諸科目で学習した知識・技能・態度を総合的に組み立てながら、ビジネスの諸活動を主体的かつ合理的に遂行する能力と態度を身に付けます。
- 2 ビジネスの諸活動の実践的な経験を経て各自の個性に適した職業を選び、社会に役立つための人間になれるよう、対応の仕方・敬語の使い方など接遇マナーを積極的に身に付け、職業人としての資質を養います。

## 授業の概要

- ・ 教室内に模擬の商業組織を設け、売買業の企業活動を中心に学習し、その中で互いに協力し合い、商業社会の基本的な活動と企業総合間の有機的な関連を理解していく授業を行います。
- ・ 社会の変化に対応するために、コンピュータを利用する実践システムについて理解し、効率的な運用方法を身に付けるようにします。

## 評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取引の流れを理解しているか。</li> <li>・社内における課題について理解しまとめることができるか。</li> <li>・会計諸帳簿が、正確に記帳されているか。販売促進活動が積極的に行われているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務に従事するにあたり、自分の役割を認識し、どのような処理が筆か考え、判断することができるか。</li> <li>・校訓唱和・校歌斉唱で大きな声が出ているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分担された業務について、指示や情報を積極的に受け止めようとしているか。</li> <li>・授業で説明を受けた書類作成方法により、丁寧に記入できているか。</li> </ul>
評価の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・検定試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・授業態度</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</li> <li>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</li> </ul> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい (内容のまとめりごとの評価規準)	定期考査
1 学期	オリエンテーション  演習Ⅰ (同時同業方式)	1 学習の心構えと職場のマナー 2 朝礼の指導・事前準備 3 パソコン・メールの設定 1 開始記入・小口現金の設定・当座勘定の開設・火災保険契約 2 仕入取引・販売取引 見積依頼書/見積書・注文書/注文請書・納品書/商品受取書 領収書・商品有高帳の記入・販売計画表・仕入計画表 3 保険会社との取引 火災保険契約・運送保険契約 4 倉庫会社との取引 寄託申込書・出庫報告書	1 学期 期末考査
2 学期	電話対応の基本  演習Ⅱ (自由取引方式)	5 運送会社との取引 市内トラック運賃の支払い、貨物発送手続き 6 各月末処理 経費の支払い・T/Bの作成 1 電話の受け方 2 電話での正しい言葉遣い 3 模擬演習 1 取引相手の決定 (演習Ⅰで学習した内容をそれぞれの商店が自由に行う)	2 学期 期末考査
3 学期	決算	棚卸表の作成 精算表の作成 決算整理仕訳 貸借対照表・損益計算書の作成	